

## シンポジウム「まちの快適空間づくりから考える公共交通」 アンケートまとめ

【回答数】 131

業界別回答数：行政（52） 鉄道（52） バス（24） その他（25） 未選択（11）

【Q1 本日の内容について】 ※1～5の5段階評価（5が最高評価）

1←良くない

良い→5

	1	2	3	4	5	平均値
話題提供	2	6	48	44	25	3.66
基調講演 1	0	5	5	21	100	4.71
基調講演 2	1	1	8	8	71	4.44
座談会	13	17	35	25	17	3.14
全体	0	6	22	47	33	3.99

「コメント」

- ・時間の配分が不適切。話される方を急かすのは失礼。
- ・ディスカッションが聞きたかった。タイムキープをお願いしたい。
- ・一人一人の話が長かった。早口で分かりづらい部分があった。
- ・時間配分にもう一工夫を！重々感じておられると思いますが…お一人にテーマを一つにしてもらった方が聞いている方にはひびきますかと。
- ・話題提供→時間なくて苦しそう
- ・基調講演2→中村の話はすばらしい
- ・座談会→個別のプレゼンになってしまったかも。木下さんの事例紹介は良かったです。”
- ・座談会の時間が足りず残念
- ・（講演が素晴らしかっただけに）座談会が時間なく残念
- ・座談会はある必要はあったのか
- ・座談会が個別の事例紹介であって他のパネリストのかたの意見を聞くことが出来なかった。
- ・座談会の意見交換が聞けなかったのが残念
- ・時間管理を上手くやって欲しかった
- ・来賓あいさつは3回もいらぬ。宣伝多すぎる、シンポジウムになってない。
- ・産官学のバランスがとれていた
- ・堀先生の話をもっと聞きたかった
- ・時間配分に一工夫が必要と感じた
- ・座談会は各者の取り組み紹介よりも対話時間が多いと良かった
- ・登壇者の個々のコメントはいらぬと思います。
- ・時間が足りない（座談会）
- ・テーマに沿った報告に絞ってもらいたかった。
- ・ためになるだけでなく、進行も楽しく勉強になりました。
- ・堀先生、川西先生のお話大変勉強になりました。「さそう」「丁寧に扱う」「だれのために」はすべての仕事に通ずる考えだと思いました。ありがとうございます。デザイナーのお仕事はしくみを提案することであるとのこと、ふにおちました。
- ・時間押しすぎ、それぞれの内容は聞きたいのに全てが中途半端に
- ・スムーズな移動や乗り換えのできる交通結節点のあり方。

【Q2 シンポジウムの運営について】 ※ 1～5の5段階評価（5が最高評価）

質問項目	平均値
会場の広さ・快適さ	4.13
会場の立地（鶴見）	3.82
開催時期（9月22日）	3.92
テーマ・プログラムの妥当さ	4.1
シンポジウムの名称	3.93
参加者名簿の共有	3.73
ロビーでの資料配布・ポスター展示	3.63
ミニコンサート	3.46
公共交通ミニクイズ	3.33

「コメント」

- ・エアコンが寒かった
- ・運営の不手際丸見え、座談会の運びへた。両先生に失礼。
- ・クイズの設問が難しい。
- ・時間配分を検討されたい。
- ・コンサートは不要
- ・快適な社会空間を作り出すため、セオリーやノウハウがたくさんつまっていたシンポジウムで、大変有意義な時間を過ごすことができました。感謝申し上げます。
- ・寒かった。女性参加者が少ないとは思いますが配慮願います。
- ・時間配分が非常にもったいなかった
- ・素人さは全く問題ありません。
- ・テーマ・プログラムの妥当さ→やや発散
- ・シンポジウムの名称→「地方の反撃」の問題？が少なくて残念”
- ・ミニクイズが難しい
- ・やることは良いことだと思いますが、コンセプトがよくわかりません。
- ・座談会の時間管理をしっかりやってほしい
- ・座談会は2H程度で内容の？耕してほしかった
- ・地域、業種毎の座席でなくても良いかな？と思いましたが内容の濃いシンポジウムをありがとうございます。
- ・ミニクイズについて休憩中に回答すると気がつかずでした。最初にアナウンスしていただきたかったです。コンサートは斬新で良かったです。
- ・9月は議会月のため
- ・名簿があってよい
- ・ミニクイズが難しい、ヒントが欲しい。
- ・堀先生が時間をずいぶん気にされていた。時間配分に配慮を興味深い話だったので。
- ・特に座談会の時間的なコントロールが全くできてなく、テーマに沿った発表等が時間足らずの感が否めなかった。
- ・川西氏の講演の中で事例の事業関係者等に対する呼び方で不適切な言葉遣い（例えば「やつ」など）が耳障りで不快だった。
- ・座談会のパネラーの発表はテーマに絞った発表に限るなど講演の延長的な仕立ては時間のロスである。聞く側としては不要な情報だった。”

### 【Q3 本シンポジウムを知ったきっかけについて】

きっかけ	回答数	媒体名
業界紙・メディア	2	交通新聞
関係団体案内	55	
上司・同僚からの推薦	27	
登壇者・運輸局関係者案内	29	
HP	10	
その他	3	FB・所属団体のグループメール

### 【Q4 次回開催に向けたリクエストについて（テーマ・時期・場所・講師など）】

- ・ BRT
- ・ 自転車と公共交通の連携
- ・ 店舗と公共空間の関連性のようなもの。駅デザイン、マネジメントなど
- ・ 地方路線バスの取り組み（十勝バスなど）、あいの風とやま鉄道
- ・ 地域の小交通ー自動運転車両の導入
- ・ 北関東の公共交通について、北関東は人口が一定集積しているのに公共交通（特にバス）の状況がひどく落ち込んでいるが、これは分析のし甲斐があると思う
- ・ 10月頃
- ・ 9月なら上旬の方が良い、10月に入ると決算業務があるので8～9月が良い。
- ・ 画面で表示されたもの、講義内容について資料をいただきたい。
- ・ 駅前交通広場における人、バス、タクシー、貨物の共存
- ・ 寒い
- ・ 高齢化社会への対応
- ・ 各講師の持ち時間が不足していたので、時間を長くするか、回数の増で対応願いたい。
- ・ モビリティーマネジメントの啓発
- ・ 公共交通機関における AI の活用例と今後の展開  
(AI を活用した地域交通の維持法策はなにかないか)
- ・ またやってください。今回みたいな個性的な講師でぜひ。
- ・ インバウンドの視点の公共空間について
- ・ 維持していくうえでの課題や、更新時の問題などにスポットをあててはどうかと思います。
- ・ 都市（首都圏）における地域公共交通の課題現状について
- ・ 地方で現地視察を兼ねてやってはどうか
- ・ 座談会の時間をもっと欲しい
- ・ テーマについては今回と似たものでいい。勉強になった。
- ・ 赤字バス路線の維持について事業者と行政の協働事例
- ・ つめすぎないテーマで時間に余裕をもったプログラムを然り検討すること。
- ・ 車依存の都市デザインから公共交通の保管機能のある自転車利用について

## 【Q5 今回のテーマである公共空間・交通空間の快適水準について】

	←課題が多い			課題が少ない→		
	1	2	3	4	5	平均値
都市部の駅	26	38	27	27	3	2.36
都市部の駅前	37	37	21	15	0	2.12
都市部のバス停	30	46	22	12	0	2.14
地方部の駅	32	41	20	8	3	2.14
地方部の駅前	35	41	20	8	3	2.09
地方部のバス停	43	35	19	9	1	1.97

### 「コメント」

- ・乗りたいバスへの案内が少なく分かりづらい
- ・店舗を作ると補助金が出ないなど制約が大きくなる。利用者ニーズと合っていない
- ・都市部の駅、特に JR 東日本の駅は商業スペース過剰でゆとりがない。本来の交通機能が損なわれていると思う。地方のバス待ちは待合時間の長さに対して設備が貧しすぎる
- ・駅についてはスペース事態が狭いのでいかに空間を使っていくかが問題。
- ・鉄道事業者や道路管理者そして自治体などの枠組を超えてしまうとやはり課題が多くなる、地下鉄なども課題が多くて大変。
- ・地方部は乗客との兼ね合いでどうしても施設整備にお金が掛けにくいと思われる。地方部では特に駅前について自家用車による送迎に配慮が必要（都市郊外でも同様）
- ・評価の仕方が難しいと思います。
- ・まじめに答えようとするれば、快適の定義が不明なのと（人によって違う）都市部/地方部でまとめて回答することにも無理あり
- ・事業者・道路管理者等、管理主体がバラバラでできることに制限がない。
- ・どう答えて良いかわかりませんでした
- ・都市部の交通はまだ活気はあるが、郊外地方部は厳しい状況と思っています。現在市で行っている駅事業からも不安を抱えています。
- ・都市部バス停の設置・移設が極めて困難。地元とのトラブル多い。
- ・快適には程遠い

## 【Q6 関東運輸局の活動内容について】

	よくチェックする	2 たまに見る	ほとんど見ない
HPについて	12	58	50
活動内容について	35	39	28

## 【Q7 感想や意見、登壇者・主催者へのメッセージ】

- ・両先生の講演は大変、参考勉強になった。今後も継続をお願いすると共に、快適な空間の創出旧態依然とした思考からの脱却への運輸局のリーダーシップ・インセンティブに期待。
- ・堀先生のお話と考え方がとても参考になった。
- ・欧米では自転車活用政策を公共交通のひとつとしてとらえる動きが活発化。自転車にはマイカーの利用を減らし、バス鉄道などの公共交通を保管する機能があるからです。是非、自転車も取り上げていただきたいです。

- ・堀先生へ、成田の障害者動線がなめらかでないが何か意図があるのでしょうか。いつかどこかで教えてもらえればと思います。
- ・堀先生、川西先生の講話は興味を持ちましたが、座談会では各メンバーの紹介に時間を費やしすぎ、一方的な情報の展開になりもったいなく感じました。座談会の趣旨を踏まえたものであれば、改善すべき1～2例を挙げ、その上で各先生、メンバーがより良くするための意見出しをする方が見ている方は勉強になるのではないかと感じました。難しいと思いますが事前打ち合わせ（メンバーによる）をした方が取組への目的や意味が伝わると考えます。多くの準備があり開催にあたり苦労があったと思います。大変ご苦労様でした。
- ・内容は非常に良かったが、タイムキープがうまくいってない所が残念に感じた。
- ・堀先生のお話は大変参考になりました。
- ・登壇者、主催者の方々ありがとうございました。分かり易くとても勉強になりました。市の事業で駅舎整備に携わっているのですが、公共交通の今後を考えるため、参加しました。特に川西先生の様な駅のデザインは参考になりました。
- ・トークセッションではなく発表だけで良いのではないかと。交通マイスターの推薦方法が分かりづらいので告知して下さい。職場の写真はいらぬ。来賓挨拶もいらぬ。開催は土日が良い。
- ・この度は素晴らしいシンポジウムに参加させていただき誠にありがとうございました。堀様の講演を聴かせていただき、以下のお言葉が胸に響きました。「人間は手を抜いたら絶対にそれを受け入れない。人を大切に。おもてなしの気持ちを大切に。」これは景観に限らず全てのことに共通していることだと思います。色々とお勉強させていただきました。ありがとうございました。
- ・堀、川西先生の講話については既存の考え方では発想できないお仕事をされ、大変興味深く拝聴しました、発想の転換の必要性を感じました。
- ・知識が足りなかった、座談会になってから疲れてしまった。
- ・運輸局による各地方を比較可能なデータの集計とその公表を継続的にしていただくとみんなで考える交通の促進材料になって良いと思います。
- ・分かりやすさ、デザインなどが大事と改めて感じた。
- ・座談会になっていないのが残念だった。普通のシンポジウムは基調講演＋意見交換の2部構成でプログラムになっている。プログラムに色々盛り込みすぎだと思う。各自の紹介だけに終わってしまったので次回期待しています。
- ・いずれの事例もすばらしかったです。
- ・宇都宮副市長のパワーポイントの資料が欲しい。
- ・本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。都心部の駅前広場空間は、非常に課題が多いと感じております。歩行者空間の創出は当然ながら一方でバスやタクシー、荷物など車両の安全確保も重要な整理すべき課題を有しております。いずれかの機会に共に考える場が出来たら良いのではと考えております。
- ・座談会については事前に良くコーディネートして欲しい。登壇者の発表資料、発言内容、所要時間を予めチェックし、会の趣旨に沿う内容に絞って有意義なものにしてほしい
- ・堀先生の話は非常にわかりやすかった。時間が少ない中でコンパクトにまとめられていた反面、もう少し詳しく内容を聞きたかった。人をもてなすための空間作りという視点での話は事業者として興味を持つものであった、今後活かしていきたい。今後、行政地域と事業者の連携例があれば紹介して欲しい。
- ・画一的な整備が多くなりがちだが、まちづくりの観点で色々考えさせられる良い機会になりました。
- ・公共交通の空間というテーマは興味深くかつ分野も広いので引き続きこのテーマを扱っていただきたい。堀先生の話はわかりやすかった。
- ・堀先生の人を呼びこんだ公共空間づくりに大いに感銘を受けた。金をかける必要はない、人にやさしく丁寧に作り上げることが大事ということで、目からウロコが落ちたということです。一方で、長く道路事業に携わってきた経験上限界もある。交通容量との関係、占有との兼ね合いなどなどの課題も多いのですが、新たな視点で物事を考えていきたいです。

- ・基調講演をしてくださったかたを雑に扱いきすぎ。プログラムが適切に組めていない。登壇者ではなく来賓あいさつを優先するシボはどうかしている。座談会にしても、登壇者のPRを優先したいのか、何かテーマを共有して議論させたいのかブレている。基調講演×2からの流れが悪すぎる、しっかり考え直すこと。川西先生のご講演、本音も垣間見えて大変面白いものでした。先生方のお話にもっと時間を割くべき。
- ・プログラムが盛り沢山過ぎて、時間が足りず、もったいなかった。基調講演は非常に興味深かった。
- ・基調講演の話は、単なる理論ではなく、写真で視覚化された事例が多く、分かりやすかった。
- ・運輸局主催でこのような外部向けのシンポジウムを開催されることは、運輸局の認知度の向上ステイタスアップにとっても素晴らしいことだと思います。近年運輸局の仕事のウエイトはどうしても観光に傾きがちだと思いますが、やはり、1丁目1番地は公共交通の活性化とまちづくりとの連携だと思えます。今後とも期待しております。
- ・時間配分のバランスを決めた方がよい
- ・テーマ自体は興味深いが時間のなさから早口になり分かりづらいところが多々あった
- ・それぞれのお話は大変おもしろく、勉強になったので機会があればじっくりと聞いてみたい
- ・話題提供は不要（参加者はそれなりに問題意識を持ってきている）では？基調講演の事例紹介は絞ってもらいたかった。座談会登壇者の自己紹介は不要。議論の中身を聞きたい。上位職になると時間を気にしなくなる（説明したがる）それを踏まえて時間設定すべき。
- ・役所の方々も「良い物をつくる」意思の元日々公務に取り組まれている方がおられることがよくわかりました。これからも「良い物づくり」に取り組まれている方をご紹介ください、大変勉強になりました。
- ・パネリスト個人のプレゼンを省き討論主体とした方が見ごたえがあると思えます。
- ・本日は堀先生のお話を聞きに参りましたが、短い時間であったので景観のポイントがよくわかりました。川西先生の地元と徹底して向き合う姿勢は大変参考になりました。地道な努力が合意形成、推進には必要と感じました。
- ・座談会がほとんど発表会でパネラー、教授方とのやりとりが聞けずもったいなく残念な進行ですね。パネラーにも、聴衆にも共に不満が残ったものと思われる。
- ・自社の連続立体の話に時間を使うな、名前負け（タイトル）
- ・駅づくり街づくりには、明確な目的や思いが重要であるということが辞令の紹介を通じて大変よくわかりました。今後の業務の参考にしたい。
- ・基調講演が素晴らしかっただけに、座談会は残念な気がした。
- ・駅広場の活用について参考になった
- ・堀教授の講演はすごく参考になりました。もう少し長く聴ければと思います。
- ・どの分野の人の話を聞いても利用者や住民が主体となっていると感じた。
- ・「にぎわい」を生むことが公共空間の質の向上につながるという従前の土木工学的な交通計画から大きな変化を感じました。ぜひ、この流れを推進していただけたらと思います。参加者に東京都や都内の区の人が極めて少ないことが残念に思いました。実務者レベルでの意見交換会などあってもおもしろいと思いました。
- ・答申と踏まえて、まりづくりとの連携という観点からの今回の取組は非常に素晴らしい企画であると非常に喜んでます。ただ範囲が広すぎてしまい、少しもったいない気がします。特に座談会です。学識経験者、事業者、行政等、それぞれの立ち位置によって考えが違っていると思います。それにもっと光を当てた方が充実した内容のものになると期待しています。
- ・大変お疲れ様でした。社交辞令でなく良いイベントだと思います。もっと学生さんと呼ぶと良いと思います。ご自身のお仕事の紹介（営業）はちょっと減らした方が良いかと。（それはHP等で勉強可。直接お話をしたいことは別にあって、皆様聞きに来てると）
- ・先生方のお話や、各事例を知ることができ、大変勉強になりました。基調講演はどちらも大変勉強になりましたが、内容が重複しすぎていると感じました。基調講演の内容（景観、地方、施設設計）と座談会での内容（交通機能、首都圏、市域、地域）がほとんどリンクしていない印象を受けました。

- ・アンケート（表面）こまかくて答えにくい感じがしました。イベントとしては手作り感があり、良いイベントでした。今後も開催されるといいと思います。
- ・お二人の基調講演が非常におもしろかった。発想の転換。もっと話を聞きたかった。どう乗ってもらうか、乗りたいものにする、行きたいまちづくり、ではなく待合などの重要性。行政の人たちにとって欲しい内容がたくさんありました。
- ・参考となるお話がたくさんありましたが、基調講演2の「交通と地域領域をこえて」についてが印象的でした。まちの檜を生かして駅を整備し、メンテナンスも地元の力を活かしており素晴らしい空間だと思いました。
- ・シンポジウム、講演のテーマも非常に興味深かったですが、同様の悩み、課題を持っている事業者、行政の方が集まる場を設定していただいたことはとてもありがたいと思います。
- ・経済産業省内の勉強会やセミナーシンポジウムでは聞くことができない内容で勉強になりました。
- ・だれのためにを考え、丁寧に取り組むことが大切であるということ、堀先生、川西先生のお話から学びました。ありがとうございました。
- ・登壇者が多かったように思います。
- ・おひとりづつじっくりお話ができるように、パネル（座談会）は2者でよかったかもしれません。

## 【Q8 鉄道やバスなどの空間作りや、まちづくりとの連携における好事例】

- ・空間づくりまちづくりとは異なるが、京都とニューヨークのバスは使いやすい、京都は路線図がわかりやすく来訪者でも使いやすい、ニューヨークは乗り継ぎ1回が無料、ごぼんの目のまちで1回の乗り継ぎで目的地に行ける。
- ・大都市の例：神戸三宮（西側と北側、東側は不知）  
地方都市の例：岡山駅北口 金沢駅  
郊外都市の例：東急田園都市線の青葉台
- ・南武線「ぶばいかわら s t」 理由：エスカレーターに頼らない動線構成は未来につながるヒントになる（今後エスカレーターの保守技師は調達が困難になるため。）
- ・環七シャトル（江戸川区）、元気、市川会！（市川市）、八千代台地域活性化プロジェクト（八千代市）、バス亭上屋整備補助（船橋市）
- ・バスの待合空間はそもそも「機能の充足」（堀教授）すらできていない段階だと思うが、好事例が昔からなかった訳ではないと思う。典型的には「田舎のバスターミナル」であり、これらは老朽化から除去される例が目立っているが、その後十分に評価されていないと思う。鉄道駅並みのシンボル性を有してきた「田舎のバスターミナル」を再評価する視点を期待したい。貴局管内だと例が少ないが、JRバス安房白浜、三里塚、草津温泉、芳賀町
- ・東急田園都市線の駅（たまプラーザ）はまちづくりという点でも行ってみたい街、住んでみたい街という雰囲気作りがうまい。（駅前が人を招いているという堀先生の考え方を地で行っている）
- ・好事例というよりも、今後地下鉄駅まちの一体的なありかたというのが重要と思われる。国内外含めどのような事例があるか勉強し、今後の都市の成長に資するまちづくり、駅づくりに活かしたいと感じている。
- ・バス停に合わせたインターロッキング舗装の整備
- ・ベンチは密度が重要で数ではない。
- ・天神バスターミナル
- ・商空間のような快適な待合空間がステキです
- ・熊本タクシープール。コンパクトにまとまっていて安全も確保されている
- ・佐賀武雄図書館（駅ではありませんが・・・）まちと公共施設が一体的に考えられている。